

鎌ヶ谷総合病院運営協議会

平成29年度第1回会議 会議録

日 時 平成29年12月20日(水) 午後2時～3時
場 所 鎌ヶ谷市総合福祉保健センター4階 会議室
出席委員 山本穰司(会長)、赤井淳二、高橋正彰、津久井清、
北村眞一、山下統悟、酒井寿枝、今井範之(敬称略)
欠席委員 寺口恵子、望月忠、(敬称略)
事務局 鎌ヶ谷総合病院 光野看護部長、福田事務次長、保坂総務主任
事務局 鎌ヶ谷市 菅井健康増進課長、本間主幹、館岡予防係長、鎌田主査

委員に対する委嘱状交付

新委員による自己紹介

事務局 : では、議題1の会議・議事録署名には、津久井委員と高橋委員にお願いしたいと思います。

よろしいでしょうか。

一同 : 異議なし。

山本会長 : では、津久井委員・高橋委員よろしくお願いいいたします。

鎌ヶ谷総合病院も今年で11年目を迎えております。

議題の2であります、鎌ヶ谷総合病院の運営状況について説明させていただきます。今井委員をお願いします。

今井委員 : はい。では、資料に基づいて説明させていただきます。

まずは、鎌ヶ谷総合病院運営協議会資料をご覧ください。資料の説明に先立ちまして、当院は今年8月末を持ちまして創設10年が経過しました。これまでの経過は、この協議会の中で皆さんに公表させていただいてまいりましたが、新たな節目で、今年1月に千葉県より、緩和ケア病床6床、回復期リハビリ病床40床、一般病床37床、合わせて83床を配分いただきました。

緩和ケア病床におきましては6月から、回復期リハビリ病床におきましては11月から開設しております。特に回復期リハビリ病床におきましては、今までは鎌ヶ谷市内にはなく、当院でも急性期の治療が終わっても、他市の

リハビリ病院にお願いしなければならぬ状態でしたが、これにより当院で継続的に治療が行うことができ、離れた病院に患者様に行っていただくことなく、早期に在宅に帰っていただくことができるようになります。まだ、開設したばかりですので、十分な機能を有しているとは言えませんが、早く充足させ、地域のニーズに応えていきたいと思っております。また、一般病床の方も早期に開設し、毎年、特に冬の時期に満床となり、救急にもご迷惑をかけている点を解消していきたいと考えております。

では、資料の説明に入らせていただきます。まず、1ページ目でございます。これは外来患者数の伸びを示しております。月によって多少デコボコはありますが、ここ数年、患者数の大きな変動はございません。これから寒くなりますので、患者数は増加してくると思われま

す。次のページ、2ページ目に地域別の患者割合を載せております。こちらは各地域、各市からの外来患者数の比率になっております。見て頂いてわかるように鎌ヶ谷市民の方々が外来数の50パーセントを占めております。

3ページ目に移ります。一日当たりの平均入院患者数を月ごとに示しております。今年度は、入院患者数が前年よりも8パーセントほど減少しています。この原因は、後ほど詳しく説明させていただきますが、救急搬送数に反映しているものと捉えております。また、11月は今までになく入院数が増加しております。これは、回復期リハビリ病棟を開設したためと考えております。

4ページ目に、救急搬送数を示しております。今年度は4月より救急搬送数が減少しました。特に船橋北部、白井市、印西市からの救急搬送が減少いたしました。この地域の病院での救急搬送の開始や、また積極的な受け入れを行っておられるのが一因と考えられております。ただし、毎年のごとくですが、7月・8月は当院の搬送数が増えてまいります。これは、救急搬送が困難になる時期や、また11月に入って寒い時期を迎えていたということもあって増えております。消防署の救急搬送件数も、11月になって伸びると聞いております。特に高齢者の搬送数が全体の約半分を占めております。

6ページ目に、平日の16時から翌朝8時までの小児科受付数を示しております。昨年ご報告したように、当院では昨年10月より平日20時から22時までの小児救急受付を開始しています。合わせて、小児科夕方診療を従来、火曜日・金曜日に限定していたものを、平日全体で行うようにいたしました。これにより、同時間帯で前年比、患者数が約2倍になっております。

7ページ目では20時から23時までの小児救急受付数を示しております。こちらを見ると、あまり前年と比べると増えておりません。当院はまだ2次救急を行なっていないことありますが、診療時間としては、夕方診療が利用しやすい時間帯なのかと考えております。

最後になりますが、8ページ目です。当院に対する患者さまからのクレーム、要望等を載せております。この件数は例年に比べて決して減少してはおりません。当院では毎朝、朝礼あるいは講師を招いての接遇講習の実施、また他の接遇研修にも参加させて教育をしております。一つ一つのご要望について、各部署でミーティングを行い、共有させておりますが、まだまだ患者様の要望に応えきれていないことの結果だと感じております。これは職員個人の問題ではなく、病院全体の問題として改善に努めていきたいと考えております。また、当院に対する地域の方々の期待の大きさ、叱咤激励と捉えて、真摯に受け取ってまいりたいと思っております。資料の説明は以上です。

山本会長 : ただ今説明について、ご質問はございませんか。

北村委員 : はい。先ほど、83床の増床があったとのことですが、これについては今83床のうち、どの程度が活用されているのでしょうか。

今井委員 : はい、先ほどご説明させていただいたように、緩和ケア病床6床、回復期リハビリ病床40床、合わせて46床をオープンさせております。

北村委員 : そうすると残りはどのような状況ですか。

今井委員 : 残り37床は、職員の確保と共に随時オープンさせていきたいと思っております。スペース的には問題ございませんので、職員数が揃えば順次オープンさせていこうとは考えております。

北村委員 : オープンの目標は、たてていらっしゃるのでしょうか。

今井委員 : 来年の12月までには全てオープンさせたいと思っております。

北村委員 : ありがとうございます。

年末になると高齢者の入院等が増えてくるのですが、今年のインフルエンザは、八千代とか習志野、あるいは松戸で結構流行しているようですが、鎌ヶ谷総合病院の方に来られるかたはどういう状況でしょうか。

今井委員 : かなりの数の方が受診されているようです。

北村委員 : そうですか。

今井委員 : ただ、注意報や警報レベルでは決してないということです。

北村委員 : 鎌ヶ谷市の場合はまだ大丈夫ということですね。そこでお伺いしたいのですが、最近、ワクチンが足りないということでよく報道されていますが、ワクチンはどうですか。

今井委員 : 一時的には止まりましたが、明日以降、また、入ってくると報告を受けております。

北村委員 : 特に今のところ大きく問題になるような状況ではないということでしょうか。

今井委員 : 予約されている方に関しましては、全て接種できております。

北村委員 : わかりました。

最後になりますけれども、昨年度のこの会議で、お隣にできた鎌ヶ谷バースクリニックとの連携をしていきたいとのことでしたが、今はどのような連携をされていますか。

今井委員 : はい。現在は、新生児の1か月健診を主に行っております。

北村委員 : 具体的にはどのようなことですか。

今井委員 : 週に1回、鎌ヶ谷総合病院小児科の医師が鎌ヶ谷バースクリニックに出向きまして、生まれたお子さんの状態の確認と、予約で1日に最大で8人と聞いておりますが、1か月健診を実施しているという現状です。

北村委員 : 例えば、それ以外のお子さんで、その他の個人病院では診てもらえないような方の相談はないでしょうか。

今井委員 : 鎌ヶ谷総合病院の小児科は外来中心となりますので、個人病院とあまり大きく変わらないのが現状です。入院が必要なケースであれば、それは船橋医療センターなどの入院設備をお持ちのところに紹介するという話になっております。

北村委員 : そうですか。わかりました。ありがとうございます。

今井委員 : 現在、鎌ヶ谷バースクリニックさんの婦人科に受診される方のMRI検査等を当院の方で実施させて頂いております。だいたい、週に一件ぐらいと聞いております。

北村委員 : はい、わかりました。

山本会長 : 他にございませんでしょうか？

無いようでしたら、議題2につきましては以上で終了させていただきます。

続きまして、議題3、鎌ヶ谷総合病院に対する要望について、会場の皆さんからご意見をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。

山本会長 : 山下委員、お願いします。

山下委員 : はい。去年ずいぶんうるさく顧客満足度(CS)、接遇について申し上げたのですが、今回ずっといろいろな方に、鎌ヶ谷総合病院のCS、接遇について、全般的に聞いてみたところ、ほとんど皆さん良くなったと言っていました。

山本会長 : ありがとうございます。

山下委員 : 去年の段階では、結構悪い評判もあったのですが、大半が良くなったという結果でした。CS教育の成果が上がっているのではないかと私は感じました。それから、クレームの件数が上がっていますが、もともと、この上がるということはいい事なんですよね。どんどん寄せられるということは、それをつかんで改善できるってことで、クレーム件数が上がりやすくなったのではないかという気がしています。私自身が、先月、胃カメラを鎌ヶ谷総合病院で受けたのですが、受付から終わりまで経験してみますと、やっぱりどの

人をとっても接遇がいいです。

山本会長 : ありがとうございます。

山下委員 : チェックしている訳ではありませんが、一応、点検していたら非常に良かったし、今も継続して治療に通っていますが、去年あたりから比べると、はるかに良くなったなと感じています。

それで、要望として、内視鏡の部屋に胃カメラと大腸検査の人が一緒に同じ部屋で待機していますよね。大腸検査2Lの水を飲みながら、トイレに頻繁に行くのですが、当日、数えたら14人もいたんです。それに加えて、胃カメラの人も10人いました。しかし、仕切り板がないので、丸見えでした。飲んでトイレに行くところが丸見えで、いちいちトイレ行くところを見られるのは、ちょっと僕だったらいやだなと思いました。それで、あそこには仕切り板が欲しいなと思ひまして、他の病院を3つあたってみたら、隔離というか、仕切り板がありました。やはり、トイレに行く姿を見られない様にしてあげた方がいいんじゃないかと思ひます。

それから、胃カメラの待合のドアがオープンになっていますが、それも通る人が見ていきますね。私の時は、たまたま知人がいまして、「おう、なんだ？」って言われてね。「大腸です」とか「胃カメラです」とか言わなきゃなくなる。そういうことを少し考えてやったほうが良いのではないかと、自身の経験上感じました。

今井委員 : 分かりました。至急検討させていただきます。

山下委員 : それから、もう1点ありますが、クレームの中の5番の食事に対するクレーム・要望というのは具体的にわかりますか。

山本会長 : 食事の量だったり、味だったり、ということです。

山下委員 : 入院患者さんのということですね。我々が望んでいるのは、前にも言ったんですが、外来の人が食事する場所がないということです。

山本会長 : 外来の人が、ですね。

山下委員 : 見ていると、受付と会計の待合室がありますね。皆さん、食事は、その一番後ろの席でとっています。それならいっそのこと、後ろの席を反対側に向けて、外来の人が食事できるようなスペースをつけたらいいのではないかと思ひます。というのも、他人に食事を見られるのもどうかということで、これは前にも要望はだしていましたが、実現されていません。

今井委員 : やはり外来の患者さんの待たれている数が多いので、どうしても現状のままにせざるをえないのが現状です。おっしゃるように、食事をするスペースが無いのかなとは感じております。

山下委員 : 血液検査を受けてから、待つ間に食事ができるのですが、1時間以上あるわけです。その間、食べる場所として、そこしかないのです。

今井委員 : 別スペースを含めて考えていきます。

津久井委員 : 1番の診療の待ち時間に対するクレームですけれども、私が以前この委員をやらせて頂いた時は、私の周りの人から、鎌ヶ谷総合病院に行くときすごく時間がかかって、1日仕事だというように言われたことを覚えています。今回見るとほとんどクレームがなくなっているという事は、例えば、どのくらいの待ち時間がかつてあったが、今はこの程度の待ち時間になっているという、データなどはありますか。

今井委員 : データを取り出すことは可能です。これは去年のこの場でもご報告させていただきましたが、システムを整備して、待ち受けの順番をモニターで示すようにしております。そういった意味で、クレーム等が減ってきていると思います。

津久井委員 : 総合病院ということで、最初の頃は、私の周りの市民の人も何かあるとすぐ、総合病院は医学の殿堂のような感じで受診して、というようなこともあったのかなと思います。この表を見た範囲でも、私の周りの人からの診療時間のクレームも減っているので、これは大変いいことかなと思いました。

それからもう1点なのですが、スタッフに対するクレーム・要望が2番目にあるということで、トータルの中ではとび抜けて多いですが、具体的にどのような事があげられてきているのかを教えてくださいたいと思います。

今井委員 : はい。一番多いのは、スタッフ間や横の連携です。患者さんから言われたことが次の所にまで伝わっていないというクレームが結構多い現状があります。

津久井委員 : 他にはありますか。

今井委員 : 他には、特に今時分になりますと、マスクをしていて職員の表情が分からないのと声が通らないこともあって、自分たちの話をきいているのかというご意見もございます。

津久井委員 : これは個人的なことなのですが、ある市民が入院して、見舞いに来てくれたということで行きました。私、びっくりしたのですが、凄いトイレ付の個室で、大きい部屋で、応接セットのようなものもあって、本人が、「私が希望したのではないのですが」と話されていました。おそらく部屋代も高いのだろうと思うのですが、入院された時に、患者がグレードの高いところを望んで行くならまだしも、そうでない場合にそういう事がありえるとすれば、どういう事なのかをお聞きしたいと思います。

今井委員 : はい。現在。4人部屋と個室、それと津久井委員が言われた特別室という形で3種類の部屋を設けております。4人部屋の方に関しましては、個室料は一切頂いておりません。残りの個室に関しましては頂いてはおります。

ただどうしても今、ほぼベッドが満床な状態で、大部屋を希望される、あ

るいは普通の個室を希望された場合、どうしてもご希望に沿えない事があります。その場合には、特別室を使っただくことはあります。ただし正規の特別室の金額は頂いておりません。

津久井委員：　そうですか。

本人もびっくりしてしまっていて、私も見舞いに行っただくしたので、その場合は、特別室使用料はとっていないと理解してよろしいでしょうか。

今井委員　：　はい。

津久井委員：　分かりました。

山本会長　：　他にありませんでしょうか。

北村委員　：　はい。市としての要望をいくつかお話しをさせていただきたいと思います。

先ほどお話でありましたが、11年目に入ったということで、私ども鎌ケ谷市民のため、いわゆる中核を担う病院として、日々色々ご協力も頂いていることに感謝申し上げます。

クレームの話もありましたが、確かに5、6年ぐらい前までは、市役所に手紙やメールで、鎌ケ谷総合病院に対するクレームを頂いていました。ここ数年そういったことがほとんど見受けられなくなったと聞いております。そういった面ではかなり、市民に対しても受け入れられてきていると、そういったことから分かるのかなと思います。

一方で、これも引き続きお話をさせて頂いているのですが、今回も是非お願いしたい事ということで3つお話をさせて頂きたいと思います。

1点目は、毎回申し上げますが、産科の設置と24時間365日対応可能な小児救急の整備であります。産科の設置ということに関しては、隣に鎌ケ谷パースクリニックができましたが、先ほどお話がありましたように、総合的に診る、あるいは入院というような所で、お互いに対応できる状況ではないということですが、こういったものに対応できるような産科を、是非、当初の協定書に入っておりますので実現に向けて努力して頂きたいと思えます。

小児救急につきましては、説明のありました通り、夕方診療等も開始されて、資料を見ると一か月あたり100人から150人だったのが、今は200人から300人と、ほぼ倍増しているということは、体制も整備されてきたその成果ではないかと、これは本当に評価させて頂きたいと思えます。

とは言いましても、お子様を持つ親にとっては、24時間対応して欲しい、土曜日でも日曜日でも対応して欲しいという気持ちは変わらないと思えます。なおかつ、鎌ケ谷市としての他の市にないものという意味では、子どもが育ちやすい、子育てがしやすい、そういった所を目標としていかなければ、他市から鎌ケ谷市を希望されるためのいわゆる魅力に欠ける街にもなってきます

ので、是非実現してほしいと思います。ただ昨年伺った時に、それをするには20人くらいの医師が必要だというお話もありました。一気にというのは難しいと思うのですけれども、最初医師が1人だったのが、2人、3人と増えてきているわけですから、これも是非実現して頂けたらなと思います。

2点目は、女性専用外来診療について、一部実施されているという説明が昨年ありましたが、現在も完全にできているということではないのだと思うのですが、その辺はどういう状況でしょうか。

3点目は、病児保育です。病後児保育は実施していただいています~~が~~、病児保育も、小児科医がいないとできないというお話があったのですが、あと何人か増えれば、鎌ヶ谷市でも実施できるのではないかと期待しています。今は白井市に頼っていますが、是非鎌ヶ谷総合病院さんにこれを担って頂きたいと思います。

この3点についてよろしくお願ひしたいと思いますが、今の状況をお聞かせ頂けたらと思います。

山本会長 : はい。産科におきましては、北村委員がおっしゃるように、あくまでも、鎌ヶ谷パースククリニックがあるからもういいということでは決してなく、当院で実施するという事は考えておりますので、努力させていただきます。

小児科の24時間につきましても、先ほど北村委員がおっしゃったように、ある程度の医師、スタッフが揃わないと難しい現状です。今、22時まで実施しておりますけれども、実は昨年末に医師が1人退職してしまいまして、今3人でやっております。ここまで広げたので、なんとか継続していきたいと、今は小児科には無理をさせてやっております。

病後児保育もあり、また鎌ヶ谷パースククリニックの検診もあり、ということで、今、小児科のドクターには朝7時半から夜22時過ぎまで勤務させている状況ですので、やはりこれはもうスタッフを揃えていかないと、これ以上上げていくのは難しいかなと考えております。もちろん無理だから出来ませんという事ではなく、今後もスタッフの確保は努めていきます。

同時に病児保育におきましても、同様の形で前向きには検討させていただきますが、現状としてはまだお時間を頂戴したいと思います。

もう1つ、女性外来に関しまして、去年もご説明しましたように、乳腺外来で月に2回診て頂いております。こちらの方も、まだまだ不足しているがありますので、スタッフを確保しながらやっていきたいと思っております。

北村委員 : はい。小児科医の確保等、本当に大きな問題だと思うんです。ここ何年間か苦勞されてきているのも存じ上げていますけれども、鎌ヶ谷市にとっては、そこが一番の喫緊の課題でございますので、是非よろしくお願ひしたいと思います。以上です。

津久井委員： 関連なのですが、鎌ヶ谷総合病院が、導入決定する経過の時に私は常任委員をしておりまして12年前からはっきり覚えているのですが、この地域にこれだけの病院のベッド数の確保ができたので、どういう病院に来ていただくかということで、公募をして、2つの病院が上がりました。

1つは、東京の下町のある結構大きい病院です。それから鎌ヶ谷総合病院さんですね。2つの病院が手を上げてくれたので、どちらの病院がより鎌ヶ谷市民のためにやって頂けるかということで、結構シビアな話がありました。

その時に、いわゆる小児科、そして小児救急を撤退せずにきちっとやるかという発問があった時に、東京都の下町のある病院は小児救急と撤退は絶対にしないということは約束ができないと言いました。鎌ヶ谷総合病院さんは、我々は小児救急並びに小児科を撤退するということは絶対にしませんという明言をされて、鎌ヶ谷総合病院さんをお願いしようということになりました。今でもその当時の事が、ありありと頭に浮かんでいるのですが、その後の経過を見ると、確かに小児科の医者が少ないなど、色々なことがあり、小児救急や夜間診療がなかなかできないという状態が続いています。今、言われたように、完全ではないけれども小児救急などについて、着手していただいたということをご苦労だったなあとは思っています。

6ページ目の資料を見ますと、例えば2015年～2016年と2016年～2017年を比べてみると、ほぼ2倍の需要があるということで、議会でもあるいは行政でも、いかに望まれているかということが、この数字からも明らかになっていると思います。

そこでお聞きしたいのは、12年前のこの病院を誘致するときの委員会で、小児救急は行います、撤退はもちろんしませんというように明言して頂いたわけですが、今後の小児救急やその24時間体制云々の見通しや展望はどうお考えかお聞きしたいのですが。

今井委員： 現状としまして、鎌ヶ谷市だけではなく、東葛地域、あるいは千葉県内を見ても、小児救急は逆にどんどん縮小されている現状があります。医師の確保は非常に困難で、これから先ますます困難になってくるだろうとは思っております。ただそれに対し、手をこまねいている状態ではなく、常に小児科医の確保は、最優先で我々も考えて進めております。今後の展望として、いつだったらそれができるのかと問われましても、今現在としては申し訳ないのですが、もう数年前からの答えと全く一緒にはなりません、やはり、お答えしづらいところであろうと思っております。ただ、現状としましては、最低限、現状を維持し、これから広げていくというお約束をしていくということしかお答えしかねるかなと思っております。

いつでもどこでも誰でも受け入れるというのが我々の理念ですので、救急

をお断りするという考え方は持っておりません。そこで、小児科医が確保できないから撤退するといった考え方も持っておりません。逆に言えば、他の診療科も含めて協力して頂きながら、これは進めていかなければならないところだろうと考えておりますので、撤退するという気持ちは全くありません。それはオープン当初から変わっておりません。

津久井委員： 努力をされていることは、数字を見てもわかりますし、先ほど言ったように市民の要望が、この数字にも表れています。色々困難だという事は、我々も素人なりに分かりますが、是非、頑張っってやって頂きたいと思います。

今井委員： はい。

山本会長： 他にありませんでしょうか。
では、酒井委員お願いします。

酒井委員： はい。今年は私も個人的に、2か月ほど鎌ヶ谷総合病院に通わせて頂いております。実際に通院してみると、本当に多くの方が病院を利用して、鎌ヶ谷市になくてはならない病院だと痛感しています。

待ち時間はやっぱり長いのですけれども、その待ってる患者以上にお医者さまや職員の負担はすごく大きいなというのは、いつも心配になるぐらいで、それでクレームも少ないのではないかなと思いました。結構、高齢のお医者様が朝からお昼御飯も食べずに午後2時、3時頃まで、通しで診て下さっているの、診療時間が減ってしまうのは困るのですが、何とか負担を減らせる方法はないのと、見ていて思ったこともありました。お医者様が1人で雑用をやっているようで、手分けして、時間も短く、負担も減らしながらやれたらいいのではと感じました。

近くに診てもらえる病院があるというのは本当に助かるなど実感しています。駅からも近いですし、鎌ヶ谷市民がいざという時に行きやすい距離に大きな病院があつて、体に不調がある時に移動の距離が少ないというのは、心身ともに負担が減って、ありがたいことです。10年前、この病院がない時はみなさんどこに行かれていたのかと考えるくらいです。ですので、11年目、これからも鎌ヶ谷市民のために是非よろしくお願いします。

要望なのですが、私は子育て世代向けのイベントを、毎年、鎌ヶ谷市との共催でやっておりまして、今年は延べ3000人くらい来たのですが、そちらで子育て世代の方に来場者アンケートを取っております。

そこで、市に望むことや市への要望、市で子育てをしていて感じることなど、アンケートをとっているのですが、やはり多いのは小児救急の対応してもらえないところがないという不安、やってほしいという要望、これが凄くたくさん書かれています。若いお母さんは、新しい暮らしを求めて鎌ヶ谷に来た方も多いのですが、話しが違ふ、やってくれるはずの病院があるのにい

つまでたっても実現されないという、もどかしい気持ちを持って暮らしている親子がたくさんいることが、アンケートに書かれておりましたので、私、市民委員としても改めて要望として、是非設置して頂きたいとお伝えします。徐々に診療時間がのびていることも、あまり知らない人も多いので、今はここまではやれているというのをもう少し、告知して頂くのも、やってもらえるといいなと思いました。やっていないと思っている親子も結構いるので、今はここまで拡張していますよと、分かりやすく知らせていただけるといいなと感じています。

この前、鎌ヶ谷総合病院で産婦人科という札をつけたお医者さんをみたのですが、それは産科の設置に向けているわけではないのですか。

山本会長 : 産科ではなく、婦人科になっているかと思います。

酒井委員 : 婦人科ですね。では、産婦人科については、進展なしということですか。

山本会長 : 産科についてはそうですね。

酒井委員 : はい。分かりました。以上です。

今井委員 : はい、ありがとうございます。

医師の負担も、ご心配かけて申し訳ありません。医師に関しましては、今、医師事務作業補助者という制度ができて、それを付けて、医師の事務仕事を手伝わせるようにはしております。ただ、確かに患者様の数を考えると、まだまだの医師1人に対する負担が多いと思っておりますので、これも医師の数を増やしながら進めていきたいと思っております。小児に関しましては、先ほど述べたとおりですが、時間に関しましては、当院のホームページの方にも掲載させて頂いたり、市の広報でも載せていただいて、アナウンスもしております。

事務局 : それに加えて、子育て応援ガイドブックという、妊娠なさった時に全数お渡しする冊子にもその時間等を書かせて頂いております。

北村委員 : 色々聞いていると、鎌ヶ谷市自体がその子育てしやすいという売りがあるということは、母親がいるということで、女性を大事にする、子育てを大事にするということを鎌ヶ谷市と共に病院としても、早く、テンポよく、進めてもらいたい。だから、約束を反故にはいけないし、努力も大変だとは思いますが、是非、女性を大事にしてほしい。これからの時代は特にそうですよね。

今井委員 : 北村委員にはこの会だけではなく、様々な機会があつて、お会いしてお話をさせて頂いております。何年前かに、清水市長にもご一緒させていただいて、千葉大の小児科の教授と会って、お願いもしてきた現状もあります。

なかなか千葉大の方も、今、医局から人を出せる状況ではないということで、一病院でどうこうというより、地域全体で、特に東葛地域という範囲で

も、千葉大としては医師を出すことを考えていくということをおっしゃっていたので、千葉大の応援を得られない現状もあります。

千葉大だけではなく、ほかの大学にもお願いしながら、お話をさせていただいてはいますが、なかなか各大学とも、ちょうど研修制度も変わる時期に来ていますので、大学としても動けない現状で出して頂けません。今後、1人1人のドクターにも当たっていきたいとも思っておりますので、ご理解いただければと思います。

北村委員 : 医師の確保については、これは行政でできることは限界がありますが、できることは何でもやりたいと思いますので、是非、遠慮なくお話をさせていただけたらと思います。

話は変わりますが、若い人達が入ってきやすいこともあり、昨日現在で鎌ヶ谷市の人口もあと30人で11万人になることということで、ひよっとしたらここ2、3日中に11万人を達成するかも知れません。

人口が減少している中で、増えていくということは、それだけ何らかの魅力があるということだと思うので、そこに付加して、今おっしゃったような、女性に優しい街、子育てにやさしい街、そういったものを作っていけたらと思います。是非宜しくお願いします。

山本会長 : はい。他にありませんでしょうか。

北村委員 : お願い事によろしいでしょうか。昨年もお願ひしたのですが、また年明けに災害医療救護関係者の方々に集まっていただき、会議を行います。昨日も巨大地震のニュースがありましたが、いつ何時、何があるかわからないので、是非、連携を取らせて頂きたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

今年度は無線を使つてのやり取りを練習させて頂いておひまして、また引き続きよろしくお願ひいたします。

山本会長 : はい、よろしくお願ひいたします。

他にありませんでしょうか。

無いようでしたら、以上をもちまして本日の議題は全て終了とさせていただきます。

その他、事務局の方から何かございますか。

事務局 : 特にありません。

山本会長 : 無いようでしたら、散会とさせていただきます。

以上を持ちまして、平成29年第1回鎌ヶ谷総合病院運営協議会を終了いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

一同 : ありがとうございます。

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため、次に署名する。

平成30年 4月 12日

署名 津久井 清



署名 高橋 正彰

